

南丹市子育て発達支援センター運営委員会議事録

令和6年度第2回

(令和7年2月17日)

令和6年度第2回南丹市子育て発達支援センター運営委員会議事録

1. 日 時 令和7年2月17日(月)  
開 会 午前10時00分 閉 会 午前10時50分
2. 場 所 南丹市役所 2号庁舎 3階 301大会議室
3. 協議事項 別紙次第のとおり
4. 出席委員 村上委員 芦刈委員 河方委員 廣瀬委員 寺阪委員 井尻委員  
渡邊委員 八木委員 新井委員 荒川委員 大秦委員 坂本委員
5. 事務局 福祉保健部部長 矢田  
社会福祉課課長 奥村  
社会福祉課係長 土屋  
つくし園施設長 大平
6. 傍聴人 0名

## 1.開会あいさつ 委員長

本日はご多忙の中、発達支援センターの会議に出席いただきましてありがとうございます。南丹市の教育長さんが、受けた教育がある南丹市を目指してという動画を配信されております。内容に私は大変感銘を受けております。そしてこの南丹市を誇れる町として、子育てにおいて大変な手厚い力を入れてくださっております。その中でも発達支援センターの支援はきめ細やかで、お子さんや保護者さんへの配慮や環境づくりを致しております。何よりも1人でもたくさんのお子さま方の笑顔が見れることを願って、今日の会議が有意義に過ごせますようにご協力の程よろしくお願い致します。

## 2.議事

### ・令和6年度発達支援相談事業経過報告

事務局より資料1, 2を基に報告。

### ・令和6年度児童発達支援事業経過報告

事務局より資料3, 4を基に報告。

### ・事業経過報告について質疑応答

A 委員：就学後の支援継続で、就学前と就学後とのかけ橋という形で発達支援センターでお世話になっていることをすごく感じました。学校の方で支援が必要な時に発達支援センターの方から出向いてもらい相談に繋いでいただいていたことを知り、改めて嬉しく感じましたし、そこはすごく大切な部分だと思いますので、これからも力を入れていただきたいと思います。つくし園の方で、保護者さんのサロンを計画されているのは今年度からなののでしょうか。サロンのようなところで保護者の繋がりができることは素晴らしいことだと思います。1回だけでなくもう少しあれば良いかと思ひますし、求められたときに開催ができれば良いのではないかといい感想を持ちました。

事務局：1月に2回目のサロンを実施しています。2回目は3名の方が参加されております。また来年度の事業方針についても説明させていただきますが、活動の方は継続して行っていきたくて考えております。

B 委員：就学後の支援の継続というところで、保護者から直接相談があったという話を聞かせていただいたのですが、例えばどの様な相談内容なのか。それと、学校とどの様に連携されてるのかを教えていただけると嬉しいです。

事務局：相談内容としては、学校に行きにくくなっていることや、授業中立ち歩きがあるといったような内容の相談があります。相談を受けた後、学校に訪問し、実際に学校でのお子さんの様子を参観させていただいた後、授業の中でどういった支援ができるかということを担当の先生と一緒に考えさせていただきました。支援内容を授業の中で実践していただき、その後、担任の先生、保護者さんと連携をさせていただくといった形で学校と保護者さんの支援をしています。

B 委員：この間、教育支援委員会のブロック会議がある中で、小学校は発達支援センターにたくさん学校に来ていただきたいという要望がありまして、すごくニーズが高まっていると感じました。専門機関に学校としても相談していきながら、この子にどのような支援が必要なのかということを考えていく中で、学校側も支援を充実させていきたいといった思いがあると感じました。

議長：ありがとうございます。他にご質問、ご意見はありませんか。

⇒質疑なし

・令和7年度発達支援相談事業方針

事務局より資料5を基に説明。

・令和7年度児童発達支援事業方針

事務局より資料6を基に説明。

・事業方針について質疑応答

C 委員：保護者にとって就学をどのようにしたら良いかということが一番悩む点だと思うのですが、つくし園に通われていた方々の話を聞ける機会を設けてくださったり、「おしゃべり会」という形で保護者同士の悩みを話し合える場も開いてくださったり、子ども達だけでなく保護者にとっても安心できる場所だと感じました。1番良かったと思う点は、就学前の5歳児のみで電車に乗ってサンガスタジアムに連れて行ってもらったことです。そこでお昼に食堂で自分の好きな食べ物を自分でお金を出して買うという貴重な体験をさせていただきました。子ども達の成長に関わる良い経験だと思いました。親子共々本当に良い経験ができる貴重な場所だと思っております。

議長：引き続き、きめ細やかな子どもさんにご支援を賜りますこと、そしてまた保護者の皆様方の連携、そして各関係機関との連携も緻密になさっておりますことを大変感謝を申し上げます。

D 委員：皆さんがおっしゃられているような質の高い支援をしていただいておりますし、一方でご意見の中にあつた保護者の皆様方への支援やネットワーク作りなど、計画に盛り込まれている内容を実践されていることを知ることができました。

議長：発達支援事業及び児童発達支援事業経過報告及び事業方針について、承諾いただける方は挙手を願います。⇒全員挙手。

承認されました。それでは議事をこれで終わります。

議長退壇

### 3.閉会のあいさつ 副委員長

本日は大変お忙しい中、このような運営委員会にご参加いただきまして本当にありがとうございます。今日の報告を受けて、手厚く活動されているということを知り、感動させていただきました。福祉という部分で、学校で足りてないところをこの様に支えていただいていることを痛感しました。特に作業療法や言語療法など、なかなか学校ですることができないことを発達支援センターでフォローしていただいているということが改めてわかったと思います。小・中学校合わせて特別支援学級に入級されるお子さんの数は毎年増加傾向にあります。昔は特別支援学級において少し抵抗を示される親御さんもおられたのですが、最近はどうらかというと保護者さんの方から入級を希望されることが増えているなど、特別支援に対して保護者さんの理解が広がっていることを感じています。就学前から丁寧に見ていただいて、それを小学校の方へ上げていただいて、その後小学校で何度か校内の支援委員会を踏まえて、この子はどこが一番最適な学びなのかということを検討しています。今までは一堂に会して学習するという形が多かったのですが、そういうところから脱却して、その子その子に合わせた学びをしていこうという「個別最適な学び」が今言われています。その個別最適な最たるものが特別支援教育ではないのかと思いますので、今後も学校で足りない部分を発達支援センターと連携しながら、困り感を持っている子ども達がどこで学べば良いのかを一緒に検討して、その子にとって本当に良い学びの場所を提供していけたらと思います。